

平成30年度 調布市立 石原小学校 学校評価報告書				様式1
	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	評価結果
学力向上	○管理職による授業観察・指導、教員による交換授業や相互授業参観、校内研修会などを通して、授業力向上を進めた。教員の専門分野を生かしたパラエティに富んだ研修を行い、全体のスキルアップが進んだ。 ○各教科の「石原スタンダード基礎編」を整理するとともに「発展編」を作成中である。共通理解した学習指導の取り組みが進んでいる。また、その推進・検証として「ノート・コンクール」を設けた。ノート指導の徹底と児童の意欲向上を進めている。 ○「富士見子ども連絡会」の協力を得て「九九クリニック」を開催した。地域人材の協力による学習支援の構築を作ることができた。 ○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、AB層5%増を目標に掲げ、達成することができた。(44.2%→56.0%) ○研究授業を通して児童の実態や授業の課題を明らかにし、外国語科・外国語活動における「主体的・対話的で深い学び」への研究を進めた。外国語科・外国語活動における授業の基本スタイルを確立した。 ○児童の学習意欲向上、表現力の伸長等に効果が見られた。 ○ワークショップ型協議を用いることで、若手を含め全員参加の研究協議を進めることができた。	○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校の授業で、基礎・基本の定着や自ら学ぶ力の育成が図られていると思いますか。」87%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。 学校での学びが豊かを得られていると考える。 また、今年度より始めたノート・コンクールについて、保護者から評価の声が寄せられた。 ○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「授業は分かりやすく楽しいですか。」中学年91%、高学年90%「前よりも、漢字の読み書きや計算力が上がっていますか。」中学年88%、高学年91%という肯定的回答であった。児童が、学校の授業で楽しさや充実感を感じていることがうかがえる。	○外国語科・外国語活動を中心に、新学習指導要領の趣旨を授業に反映させるべく校内での研究・研修を進める。 ○「石原小スタンダード（基礎編・発展編）」の実施により、学習効率を向上させる。 ○これまでの算数科研究を基盤に、授業の充実と学力向上を図る。 ○地域の教育力を活用し、補習等を充実させる。	A
	○生活指導全体会、職員大会などにより、児童の状況と指導の共通理解を図った。守るべきルールを徹底することができた。 ○年間を通じたあいさつ運動など、本校伝統の取り組みを続けることで、校内の規律が守られるとともに、異学年と楽しく交流できる心や学校心を育むことができた。 ○開校60周年記念行事により、学校を大切に思う気持ち、全校の一体感を培うことができた。 ○特別支援教育については校内委員会が適切に協議し、細やかな対応ができた。 ○日々の生活や行事における高学年の自覚を育てることにより、下級生がそれを見習う校風が育っている。	○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「子どもたちは「学校のきまり」を理解し、守ろうと意識して生活できている。」への肯定的評価は83%であり、前年度より9ポイント低くなっており、日々の学校生活を点検する必要がある。 ○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校のきまりや約束は、学校でも学校以外でも守っていますか。」中学年88%、高学年87%「学校では、だれにでも自分から進んであいさつしていますか。」中学年87%、高学年92%であった。子どもたちが、きまりを意識して生活している様子がうかがえた。	○組織的な指導・対応、全校共通の指導を行うことで、安全・安心の徹底を図る。 ・学年会、生活指導部、いじめ防止対策委員会等、組織に開連する。 ・実態把握のために、児童アンケートを実施する。 ・年度はじめや学期はじめ等に、校内・校外のきまり、アレルギー対応、非常時の体制等を確立する。 ・校内の安全については、職員全員で総点検し、共通理解を図る。 ○特別の教科「道徳」の授業充実を図り、命と心の教育の充実を図る。 ○年間を通じ、全学年が輪番で「あいさつ運動」を展開する。 ○関係団体の協力を得て、連携を図っていく。	B
健全育成	【いじめの根絶】アンケート調査や職員大会での情報交換により情報の収集・状況把握を行った。いじめや不登校の萌芽に対しては、いじめ防止対策委員会などにより、速やかかつ組織的に対応し、深刻化させなかった。 【アレルギー対応】シミュレーション研修や職員会などで教職員の知識を深め、学期はじめなど折々に確認事項を全体で確認し、適切に実施し、事故がなかった。 【防災教育】避難経路を適切に実施し、避難時の適切な態度が育ってきている。 【登下校の安全確保】地域のふじみパトロール隊・PTAと円滑な連携を図り、重大な交通事故・事件はなかった。	○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校は、子どもたちの心や体の健康や安全に十分に配慮しながら、日々の教育活動に取り組んでいると思いますか。」86%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。 ○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校は毎日楽しいですか。」中学年88%、高学年85%「友だちをいじめたり、友だちにいじめられたりしないで生活していますか。」中学年91%、高学年92%という肯定的評価であった。これらの項目については、さらに高く、100%に近い状況を目指さなければならない。引き続き、子どもたちを細やかに見守っていく。		
	○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取組 ・マラソン週間・大会、大大会・大会を設けた。運動に対する児童の意欲を高めることができた。 ・アスリートを招く出陣授業により、児童の競技に対する関心が高まった。また、夢の体験学習などを通して、日本文化を身近に感じることができた。 ・学校での取組期間中はがんばって運動するが、それが放課後の運動や遊びになかなかつながらない。 ○健康に対する正しい知識や態度を伸長させる活動に取り組んだ。 ・児童集会において、高学年児童による手洗い・うがいの動作を呼びかけるなどの活動を行うことができた。 ・学校歯科医と連携した事業として、3年生で2週間の歯みがき指導を実施することができた。	○学校関係者評価アンケートにおいて、「たくましく心や体をつくるための運動や遊び等の取組は十分だと思いませんか。」89%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。 学校の運動行事やオリンピック・パラリンピック教育の取組に理解を得られていると考える。 ○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校では、自分から進んで運動や外遊びをしていますか。」中学年94%、高学年86%という肯定的評価であった。 高学年へ向け、運動や外遊びから遠ざかる傾向が見られる。運動への意欲関心を高めていく必要がある。	○オリンピック・パラリンピック教育の全体計画・年間計画を作成し、計画的に取り組む。 ・児童の体力・健康増進の取組 ・オリンピック・パラリンピックの意義を理解する取組 ・国際理解や障害者理解に関する取組 ・「東京2020オリンピック」実践学習会の開催 ○体育授業の充実や、マラソン週間・大会等の推進を通して、児童の基礎体力向上を図る。 ○歯みがき指導、薬物乱用・喫煙防止指導をはじめ、自分の健康を見つめる活動を通して、児童の健康に対する意識を高める。	C
保護者・地域との連携	○地域・PTAの協力を得て開校60周年記念行事を成功裡に終えることができた。記念行事を準備・運営する中で、学校と地域・保護者との連携がさらに強まった。 ○「富士見子ども連絡会」での情報交換により、児童の安全確保と健全育成を進めることができた。また、「連絡会」にとどまらず、実際の学校への協力を得ることができ、2年生対象「九九クリニック」を開催することができた。 ○各学年において保護者・地域の方をゲストティーチャーとして迎える授業を行い、地域人材の協力を得ることができた。 ○毎日の登下校や校外学習などにおいて、ふじみパトロール隊や保護者の協力により安全を確保し、学習活動を充実させることができた。 ○月1回、パトロール会議（学校・PTA・ふじみパトロール隊・ワンワンパトロール・健全育成）を開催し、児童の安全確保のための情報交換・話し合いを行い、大きな事故や事件なく過ごすことができた。	○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「保護者や地域に対して積極的に情報を提供し、開かれた学校作りを努めている。」92%「教員は、保護者や地域に対して、誠実な態度をとっていると思いますか。」92%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。 学校評議員会・学校関係者評価委員会において、開校60周年記念行事について好評価をいただいた。	○「富士見子ども連絡会」との連携協力を進め、学習支援や生活指導を充実させていく。 OPTA、富士見パトロール隊等との連携を強める。 ○地区協議会と連携し、防災対策を検討していく。 ○学校・IPの内容の精選と更新の効率化を図り、学校の発展力を高める。	C
	○算数習熟度別指導では、グループによって問題や展開を変えるなどの工夫をして、児童の実態に対応した授業を進めることができた。2年生3学期から少人数指導を体験させることにより、3年生からのスムーズな移行ができた。 ○日本語指導により、児童に基礎的な内容を身に付けさせるとともに、自信をもたせることができた。 ○校内通級教室（いしむら教室）では、市内の拠点校再編成により新体制となったが、しっかりと環境準備を整えたことで順調なスタートを切ることができた。これまでのノウハウを生かした指導を行うとともに、ロールプレイを培やすなど柔軟な授業の工夫を行ってきた。	○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「先生は、自分の話をよく聞いてくれますか。」中学年90%、高学年93%「先生は、がんばったことを認めてくれますか。」中学年88%、高学年90%という肯定的評価であった。 教師が子どもたちを認め、子どもたちが教師に親しみを感じていることがうかがえる。自己有用感をさらに育んでいきたい。	○いしむら教室の授業改善を進める。 ○校内委員会を十分に機能させ、学級での支援・通級での支援・個別指導による支援などを効率的にコントロールしていく。また、特別支援教室専門員やスクールサポーター等の役割を明確にして支援の質を高めていく。 ○学級の指導との相乗効果を図る。	C
特色ある教育活動	○文化文芸活動や体験活動を多く実施した。 ・音楽、ジャズ、華道、アンサンブルバンド等々。児童に感動や驚きを与えることができた。	○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校や家では、自分から進んで本を読んでいるようにしていますか。」中学年83%、高学年73%という肯定的評価であった。 児童の読書への関心はあまり伸びていない。さらなる取組が必要である。 学校評議員会・学校関係者評価委員会において、文化的行事について好評価をいただいている。	○読書活動のさらなる充実を目指し、読書週間の取組をさらに工夫改善していく。また、授業での読書指導を細やかに行う。 ○オリンピック・パラリンピック教育や外国語活動とも関連させ、様々な文化文芸活動体験により、愛国心や外国文化への正しい理解、国際理解や平和について考える機会を設けていく。	